

キーワードで綴る 2015 年

12月1日、「ユーキャン新語・流行語大賞」が発表され、年間大賞は「爆買い」と「トリプルスリー」が受賞となりました。「爆買い」には納得の筆者も「トリプルスリー」には意外感がありました。

というのも、今年のプロ野球は、ソフトバンクがあまりに強すぎ、シーズンの盛り上がりには欠けた印象があったため、プロ野球のジャンルからの年間大賞選出は違和感があったからです。

選考委員から聞こえてくる声によると、今年は突出した候補がなく選考において例年以上に揉めたとのこと。ヤクルトの山田選手が日本シリーズで3連続本塁打を打っていなければ、「トリプルスリー」の年間大賞はなかったかもしれません。

新語・流行語には乏しい2015年でしたが、一方、ニュースには事欠かない年でした。

そこで今回のCBCAニュースでは、年末にかけてマスコミ各社が発表する重大ニュースに先立ち、「キーワードで綴る2015年」として今年の出来事を振り返ります。

◆ イスラム国

今年、世界を最も震撼させたニュースは、イスラム国およびそのグループによるテロではないでしょうか。記憶に新しい11月のパリ同時多発テロ、日本人ジャーナリスト後藤健二さんらの殺害など、彼らによると思われるテロが世界各地で多発しました。

イスラム国の侵攻は大量のシリア難民を生み、受入先となっている欧州社会の混乱要因となっています。イスラム国への空爆のため、NATOとロシアが協力するといった異例の事態になりました。先のイラク戦争やアラブの春がイスラム国誕生に複雑な影響を与えたことなどと合わせ、中東情勢は、政治、民族、宗教を巡り激動と混迷が続いています。

◆ 東京オリンピック

2020年東京オリンピック開催決定の歓喜から一転、今年は開催準備に関するトラブルがマスコミを賑わす事態となりました。新国立競技場建設計画の白紙撤回は、行政の能力不足を露呈した事象と言えるでしょう。一方のエンブレム問題では、佐野氏の問題は別として、IT・ネット社会における知的ビジネスの管理の難しさが浮き彫りになりました。

また、東日本大震災からの復興を旗印とした東京オリンピック招致でしたが、震災復興および首都圏での耐震対応で建設・土木への需要が既に強いところへオリンピック特需が重なったため、建設業界はすっかり需要過多となり、肝心の震災復興に支障をきたすケースもあるそうです。世紀のイベントの開催は容易ではありません。

◆ 中国経済

今年の世界経済は、良くも悪くも中国経済が主役の1年となりました。

新語・流行語の年間大賞に選ばれた「爆買い」は、百貨店や量販店の売上げを伸ばし、メーカーの利益を押し上げています。日本経済に対するメリットが目立ちますが、一方、宿泊施設やバス駐車場など、観光地におけるインフラ不足が問題となっています。

夏場以降の中国経済の減速懸念は、株価を大きく下落させました。中国がマーケットに与えるインパクトは米国と双壁になったと投資家に印象付けました。

一方、アジアインフラ投資銀行（AIIB）の創設や、国際通貨基金（IMF）による中国人民元の世界主要通貨への位置付けは、中国が世界の制度面においても存在感を強めている事象として注目されます。

◆ データ偽装

独フォルクスワーゲン社によるディーゼルエンジンのデータ偽装の発覚は、超一流企業の不正として私たちを驚愕させました。世界のトップ企業であり、環境ビジネスにおけるエリート企業と目されていた同社の不祥事は、企業経営者のインセンティブに潜む危険性をまざまざと感じさせます。

日本においては、大手メーカー東芝による粉飾決算、旭化成建材におけるマンション杭打ち作業のデータ不正、ワクチンの有力メーカー化血研による製造記録の偽造と、データ偽装を伴う不祥事が相次ぎました。

コンプライアンス強化が叫ばれる今日、ビジネスにおいてエビデンス（記録、証拠）を残すことが強く求められていますが、データが簡単に偽装されてしまうようでは、元も子もありません。

ちょっと暗い、というより怖いニュースが多い2015年でしたが、来年はどのようなことが話題になるでしょうか。CBCAニュースでは今後も、税制、経済、時事などでタイムリーな記事をお送りしたいと考えています。

一般社団法人全国経営診断士会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213

mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先